

施設名	青梅市第一学童保育所以下7か所		
指定管理者名	株式会社こどもの森		
指定管理期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日	担当課	子育て応援課
設置目的	小学校に在籍する児童で、放課後家庭において保護者の適切な監護が受けられない子どもの健全な育成を図るため。		

評価ランク	評価内容
S	協定等を遵守し、仕様よりも優れた管理であった。
A	協定等を遵守し、仕様に沿った管理であった。
B	協定等を遵守し、おおむね仕様に沿った管理であったが、一部に課題があった。
C	協定等を遵守できず、仕様に沿った管理ができなかった。

評価項目		評価内容	評価方法	指定管理者 評価	評価理由	市評価	評価理由
管理 状況	適性な管理の履行	協定や事業計画に沿った管理が適切に履行されているか。 ・業務の履行(清掃・巡回の回数など)は適切か ・人員配置は適切か。 ・協定や事業計画どおりの管理となっているか など	事業報告、四半 期報、月次報 告、現地視察、 ヒアリング	A	協定にもとづき施設の設置目的に沿った運営に努めた。人員配置については昨年から引き続き新規採用を進めつつ、既存の職員の育成も強化し各クラブの運営に努めた。また、障がいがある児童の対応について、当法人の系列施設(児童発達支援施設)の職員に相談する機会もあり、より寄り添った支援を実現することが出来た。	S	適切に業務が履行されており、事業計画どおりに実施していた。人員配置も適切である。
	事業報告	定められた期間での報告および連絡が指定管理者からされているか。	事業報告書、月次報告書	A	事業報告書、月次報告書は期日までに提出できていた。	B	資料の提出について、定められた期間内に提出されないことが度々あった。
	安全性の確保	管理区域内の安全性については十分に確保されているか。 ・施設の安全性は確保されているか ・協定や事業計画どおりの管理となっているか など	事業報告書、現地調査	A	開室前に安全管理チェックを実施し、施設の不具合や危険箇所の有無の確認を行い記録した。改善の必要がある場合には所管課への報告を行い、事務局と連携して即対応をすることで安全性の確保に努めた。	A	利用者である児童に対し、注意喚起を行うなど安全性の確保に努めていた。
	法令等の遵守	個人情報保護のための体制、書類および情報の整理および保管等は適正であるか。 ・市への報告は適時、適切にされているか など	事業報告、現地視察、ヒアリング	A	個人情報には鍵のかかる場所に保管し、不必要な個人情報は複数人で処理するなど適正な執行に努めた。また、年2回職員への指導を行い高い意識で取り組めてきた。 所管課への報告については随時行い、密に連携を取らせて頂いた。	A	定められた法令等を遵守し、適切な執行に努めている。
	業務記録	業務等の記録は、適正に作成、整理および保管がされているか。	事業報告、月次報告、日誌	A	各施設において業務日報の作成を毎日実施、記録は事務局にて適切に保管している。	A	業務の記録を作成し、整理・保管されている。
	緊急時対応	災害時等の緊急時の体制は整っているか。	事業報告、ヒアリング	A	消防計画に則り自衛消防組織を編成している。また連絡体制を掲示し全職員が対応できるように周知、訓練を通して徹底を図っている。 らくらく連絡網という電子ツールで保護者へ連絡できる体制も取っており、台風や大雪などの災害発生時にも、いち早く保護者にお知らせできる状態になっている。	A	緊急時の連絡体制や危機管理体制を整えている。
		災害時等の緊急時の対応研修、訓練等を行っているか。	事業報告、ヒアリング	A	全施設、毎月避難訓練を実施し記録に残している。また火災・地震の他に水害訓練、不審者対策訓練についても実施している。学校主催の引き渡し訓練にも積極的に参加し、緊急時の対応について学校との連携も高めている。	A	適時訓練を実施し、緊急時の対応確認を行なっている。
	適切な財務・財産管理	適切な財務運営・財産管理が行われているか ・建物や器具の破損、物品の紛失等はあるか など	事業報告、現地調査	A	適切に管理している。	A	適切に管理している。

事業効果等	事業の取組	事業計画どおりのサービスが提供されているか ・事業の計画、実施、成果は計画どおりか など	事業報告、月次報告	A	事業計画に沿った運営を実施。昨年度に引き続き、保護者参加型のイベントとして『夏祭り』を実施したことで、児童・保護者ともに満足の声を多数いただいた。また、タヤけランドとの連携イベントを積極的に実施した。工作やスポーツを通して学童以外の機関との交流を図り、児童にとって多様な経験を育む機会となった。	A	事業計画どおりに適切に運営している。
	利用の状況	事業計画どおりの利用状況となっているか ・利用者は事業計画どおりか(環境の変化など外部要因を考慮)	事業報告、月次報告	A	児童の安全に配慮し、適切に保育を実施した。	A	事業計画に沿って適切に保育がされており、計画どおりの利用状況になっている。
	利用者意見の収集	利用者アンケート等を年1回以上実施し、利用者意見の収集をおこなっているか	アンケート、ご意見箱	A	8月にアンケートを実施し、児童及び保護者の意見を収集した。日頃からこども達の意見を反映した『リクエストおやつ』や『リクエストイベント』の実施や保護者からご意見を頂戴できるように、玄関へ『ご意見はがき』を設置している。また、日々のコミュニケーションの中で意識的にニーズの収集も行っている。	A	利用者アンケートを実施し、利用者の意見収集が適時行われている。
		利用者の満足度を得られているか ・職員の接客対応、利用条件等は適切か	アンケート、研修、現地視察	A	総合満足度について満足とご回答頂いた割合の平均が95%を超えた。またご意見箱で吸い上げた意見を反映し、連絡帳、手紙などで感謝の手紙をいただくなど満足度についても得られている。	A	利用者から良い評価を得られている。
	利用者意見に対する対応	利用者アンケート等による意見に対し、適切に改善策が講じられているか	アンケート、ヒアリング等	A	異年齢交流の場としてお楽しみ会や歓迎会等といった児童を主体としたイベントをより多く実施したことで、児童アンケート問7の項目が昨年度に比べ全体で4%上昇した。また、児童や保護者よりご要望を頂いていた腹持ちの良いおやつや提供に関して、ホットケーキやフルーツポンチ等といった『手作りおやつ』の実施や栄養価の高い苺やリンゴ等の果物を提供したことで、児童や保護者より高い評価を頂いた。また、普段の保護者や児童とのコミュニケーションやアンケート等で頂いたご意見や課題を、全施設で共有し、運営に反映できた。	A	利用者からいただいた意見に対して適時改善を図っており、その対応が満足度につながっている。
	行政目的の達成	行政と連携を図り施設の目的を達成しているか ・施設の設置目的を達成しているか ・市および関係機関との連携が適切に行われているか など	事業報告、月次報告、ヒアリング	A	所管課との密な連携はもちろん、こども家庭支援センターとも情報を共有することで、児童を取り巻く機関として関係機関と共通認識を持ったうえで児童の対応に当たることができた。また、担任や副校長などと児童の様子を共有し、学校との連携を進めていくことができた。	A	担当課と密に連携し、適切に運営していた。また学校等の関係機関と情報共有を行い、連携を図っている。
	その他提案内容等	指定管理者選定時に提案のあった事項等について、提案とおりに実施できたか	事業報告、月次報告、ヒアリング	A	イベントの充実と保護者への情報発信を計画通りに行えた。加えて、地域の方から玩具や文具の寄付や地域のイベントに参加させてもらうといった地域交流を図ることで、事業のクオリティの向上に繋がった。	A	提案どおりに実施している。
会計	処理	管理業務の会計に関する帳簿、書類の整備および保存は適正にされているか。	事業報告	A	適切に管理している	A	適正に管理されている。
	管理	現金等の管理は適正であるか。また、金庫等の鍵の管理は適正であるか。	事業報告	A	適切に管理している	A	適正に管理されている。
収支状況	施設の収支決算状況	赤字決算に陥っていないか。 予算と決算に大きな相違があった場合はその相違の理由が的確である。	事業報告	A	黒字となっており、適切に運営を行っている。	A	法人として適切に運営されている。
	指定管理者の収支決算状況	経常利益率(経常利益÷売上高×100(当期経常増益額÷経常利益×100))がプラスになっており、赤字決算に陥っていない。	事業報告	S	経常利益率37.0%となっており、法人として安定した運営を行っている。	S	法人として適切に運営されている。
		借入金に依存した資本構造ではなく、自己資本比率(自己資本(または正味財産)÷総資本×100)が30%以上となっている。	事業報告	S	自己資本比率59.7%となっており、安定した運営を行っている。	S	法人として適切に運営されている。
		流動比率(流動資産÷流動負債×100)が100%以上となっており、事業継続の安全性に不安がない。	事業報告	S	流動比率1633.6%となっており、事業継続の安全性に不安はない。	S	法人として適切に運営されている。

1 指定管理者自己評価における評価理由、意見等

評点	数
S	3
A	18
B	0
C	0

記入欄

- ・人員配置については新規採用を進めるとともに職員研修の強化に加え、職務への理解を深めるミーティングを毎日行い、各クラブの職員のレベルも向上している。
- ・タやけランドとの連携イベントを積極的に展開したことにより学童以外の機関との交流が増え、児童にとって多様な経験を育む機会となった。また、利用者の満足度を重視した『保護者参加型イベント』や『リクエストおやつ』、児童主体の異年齢交流を促す『お楽しみ会』を実施したことで児童の主体性や協調性の育成を図ることができ、利用者アンケートでは全施設平均で95%のご家庭から「満足」という大変ありがたい評価をいただいた。結果として事業自体のクオリティが向上したと考える。
- ・整備されたマニュアルをもとに、日々の危機管理や環境整備を徹底して行うことで安全性を確保した。
- ・地震・火災・不審者の侵入などの状況を想定した避難訓練を実施し、また所管課からの土砂災害訓練に伴う情報伝達訓練、学校主催の引き渡し訓練等にも積極的に参加することで職員も児童も災害や防犯への意識がより高まった。
- ・会社の財務については、専門家からも最高の評価を頂いている。

2 市の評価、意見等

評点	数
S	4
A	16
B	1
C	0

記入欄

- ・協定や事業計画に沿って、事業の実施・管理運営を行なった。長年培ってきた経験があるため、問題なく安定した事業運営を行なった。
- ・体験型プログラムや自主性を促すイベント・行事をたくさん実施し、こどもたちが主体的に活動できる環境を整えている。
- ・学校や関係機関と定期的に情報共有を行ない、また担当課とも連絡を密にとりながら学童保育所の運営を行なった。
- ・市への提出物については、期日を過ぎることが多々あったため、改善が必要である。
- ・定期的を実施している全事業者による定例会議では、管理責任者に加え、現場担当も出席することで、それぞれの現場での課題等に対し、情報共有し、対応策も考え、各学童クラブの質の向上につなげている。